



12層鉄骨の向 需要は鮮明な回復基調に 価格は止りが最大の焦点

今年の建築鉄骨の需要動向は、動きの鈍い大型高層物件と堅調な大型低層物件、また、地域的に「東高西低」が顕著にみられる1年となった。新幹線整備などインフラ関連、全国的な耐震補強工事の発注も相次ぎ、景気の回復感もあつて後半に需要が増加、ファブ各社の繁忙感が続いている。来年も、先送りとなつた高層案件の本格稼働や引き続き堅調な低層案件が首都圏だけでなく地方でも計画、消費税の駆け込み需要などを含めて業界に追い風が吹いている状況にあり、明るい材料は多い。しかし、不安要因の残る経済情勢のほか、鉄骨価格低迷による企業体力の低下、従業員の高齢化や就業人口の減少による生産能力の落ち込みなど、課題も少なくない。「来年に向けて、大きな山場を迎えている」との指摘は多く、今後の展開に関係者の注目が集まっている。

淘汰を含めた厳しい展開も

緩やかな景気の回復基調を反映し、全国的に大半の鉄骨ファブリケーターが繁忙期を迎えているのが現状だ。昨年から継続している物流倉庫や商業施設関連などに加え、今年夏以降からは北陸や九州などの新幹線整備、リニア関連整備などの建設工事が本格化、需要は依然好調で、年末を迎えてもその勢いは衰える気配はみられない。

こうした物件の鉄骨使用量は数万〜数千㎡で低層ながら大型が目立ち、多くは「物流倉庫や商業施設で柱RC造・梁S造の混合構造を採用する事例が少なくない」(大手鋼材商社)という。また、スロープや立体駐車場などの付帯鉄骨も多いことから、Hグレードや鋼材商社が中心となり「製作協力も含め多くのファブが参画している」(同)とされる。なかでも鋼材商社はゼネコンへの営業強化、与信対策もあり、これまで以上に存在物件が増加、高稼働率で推移する関東の主要ファブを避けて、需要の少ない地方ファブに製作依頼するケースも多くなっている。「これまで比較的首都圏を中心とした物件が多かったが、地方での計画も出てきており、景気動向次第ではその需要創出に拍車がかかる」(同)という見方もある。

また中小規模の物件は、首都圏のほか東北や北関東の被災地を中心に発注が相

次ぎ、駅舎や店舗、団地への耐震補強工事を含めて増加傾向にある。今後も、「震災復興の本格化に加え、消費税増税による駆け込み需要が期待できる」(Mグレード)とみられている。

こうした動きの一方で、Sグレードが担当する大型再開発の本格稼働が年明け以降に先送りとなる見通しで、全体的な動きは依然として鈍い。積み残しと来年度着工の工事が重複することから一部ファブでは「夏前ごろまでの仕事を確保している」という声も聞かれる。ゼネコンサイドでも、需要増とファブの加工能力の減少を見越して前倒し発注も見られ、工場確保を急ぎたいとする思惑もあるようだ。

来年の需要展望については「景気がゆるやかに回復するとの前提条件付きだが、その場合、今年の水準に20万〜30万㎡程度上乗せできるのではないか」(鋼材商社)と量的な回復では多くの関係者の見方が一致しているものの、業界全体の課題として残されたままの単価の是正は「ゼネコンの過当競争が依然として続いている。厳しい状況で推移するだろうが、今の「利益なき繁忙」が続くとすれば、ファブ経営として成り立たない。まさに正念場を迎える」(Hグレード)と指摘する。

特に大型高層物件では、ファブ間での受注競争の再燃やゼネコンの指し値が横行しており、厳しい受注環境が続いている。「大手ファブの企業体力が限界水域まで達している。加えて、需要の地域格差が鮮明になつており、名古屋地区での再開発案件が出件されているものの、関西地区では高層オフィスの空室率が上昇していることから、開発意欲も低く、計画自体が特定地域に限定される状況にある」(大手設計事務所)としている。今春、最大手のJFEエンジニアリングが市場撤退を発表し、他の大手ファブも関西地区の工場や事務所の閉鎖、規模縮小、東京工場へのシフト、関連企業(工場)の売却・賃貸などが相次いでいる。こうした厳しい価格環境は、「ゼネコンの量とコスト優先」の受注体質と営業姿勢の解消や、最悪期とされる11年に受注した赤字物件の積み残しを消化しない限り継続する」(Hグレード)と関係者は指摘する。ここにきてようやく「一部ゼネコンでは、不採算物件の受注を避ける動きがみられる。また、設計変更などで採算確保できるように努力しているゼネコンもある」(鋼材商社)として、一部ではあるもののダンピングまがいの受注回避とともに、陥没した受注単価を是正する動きが見られるようになってきた。「良い方向に進展している兆しが見られる。川上のこうした動きが早期に進展することには期待したい。今後、量的回復は間違いないが、回復時期まで体力がない企業は、間違いない淘汰される。今後の動向を注意深く見守りたい」(同)として、当面、予断を許さない流動的な局面が続く見通しだ。